

USDT永続契約取引

USDT本位永続契約はデジタル資産デリバティブ商品であり、ユーザーは上げ下げを判断し、購入・売却・空売り契約を選択することで、デジタル資産価格の上昇/下落の収益を得ることができる。担保資産現物市場と同様に、USDTで価格を計上し、価格は対象の参考指数価格に近いものであり、現物価格をアンカーする主なメカニズムは資金費用である。USDT本位永続契約には受渡日がなく、ユーザーはずっと保有することができます。

USDTベースの永続契約市場のメカニズム：

担保資産率と強制平準化：担保資産率が0以下の場合、ポジションは強制平準化をトリガーします。

倉庫別担保資産率=口座資本/占有担保資産*100%-調整係数、

全倉庫担保資産率=勘定資本/Σ 全倉庫勘定のすべての契約の（占有担保資産*調整係数） - 100%

デジタル通貨契約取引の役割：

1、ヘッジ、リスクをヘッジする役割。

現在の契約は主にユーザーに2つの役割を果たすことができ、小さくて大きくてリスクをヘッジすることができます。小さな博打で理解しやすく、すなわちレバレッジを通じて収益を拡大するが、契約を採用してリスクヘッジを行う人の多くは鉅夫を主とし、リスクヘッジの原理は以下の通りである：

もしBTCの価格が上昇すれば、先物は損をし、BTCの数は少なくなり、総価値はほぼ変わらない。

BTCの価格が下落すれば先物は稼ぎ、BTCの数量は増え、総価値は変わらない。

先物市場では現物と同じ品目・数量で売買されているが、方向が逆の先物契約。ある市場の利益で別の市場の損失を補うことで、価格リスクを回避する。先物の価格は現物価格と経済要因の共同制約を受け、受渡メカニズムの存在があり、長期的に見れば先物と現物価格は一致性がある。

それに加えて、契約があれば、価格が一方的に上昇または下落した時に、逆の力が価格を相対的に理想的な状態に戻し、現物市場の価格を管理し、短期的に不合理な価格を理性に戻すことができる。

2、資産の流動性を増やすことは、機関のより多くの投資家が参入するのに有利である。

多くの機関投資家はビットコインに直接投資できないため、大手取引所がデリバティブを発売したことで、こうした投資家はビットコイン市場にアクセスできるようになった。

3、取引方式を広げ、ビットコインの価格決定権を争う。

契約取引は仮想資産取引戦略を多様化させ、空売りも多くすることができる。同時に、現物市場と契約市場は相互に流れを誘導し、デジタル通貨市場全体のマスを増大させる。